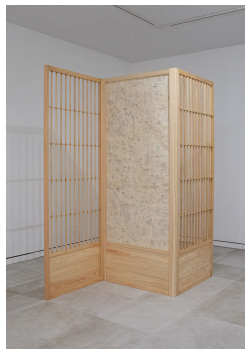


半澤友美は、紙漉きを人間の行為と素材の振る舞いのあいだの交渉として捉え、プロセスの外から指示するのではなく、そのただなかに留まりながら制作する。

繊維は水や圧力、動きに応じて自ら振る舞い、構造は完全に制御されることなく形をなす。その制作のなかに、日常の痕跡、記憶、失われたものなどが紙の内部に保持される。作品は過ぎ去ったものを描写するのではなく、触れたものがそこに留まることを許す。重なり合い、脆く、変化に開かれたまま。



《もう一つの庭》, 2025, 楮, 印刷物, 木, 970 × 850 × 30 mm (38.2 × 33.5 × 1.2 inches)



《庭》, 2025, 楮, 印刷物, 木, 1754 × 1364 × 1364 mm (69.1 × 53.7 × 53.7 inches)



《庭》, 2025, 楮, 印刷物, 木, 1754 × 697 × 697 mm (69.1 × 27.4 × 27.4 inches)



《一句 #5》, 2025, 印刷物, 木, 368 × 68 × 34 mm (14.5 × 2.7 × 1.3 inches)



《庭について》, 2025, 写真, 植物, 日記帳, 他

## アーティスト・ステートメント

半澤友美は、紙と繊維を素材に、人間の存在がいかにして形づくられ、維持され、変容するかを探求している。紙を表面としてではなく、繊維の絡まり合いによって生成される構造として扱う。繊維が集まり、離れ、再び結びつくように、人間の関係もまた不均一な層や緊張、隙間を残しながら一つの生のなかに堆積していく。作品はこうした過程を表象するのではなく、その痕跡を素材のうちに保持する。

紙作りそのものが制作の核にある。繊維は水や圧力、動きに応じてそれ自体の傾向に従って振る舞う。結果を完全に予測し統御することはできない。半澤の制作は、素材を支配するのでも偶然に委ねるのでもなく、形が生まれる過程のただなかに留まり、応答し続ける行為である。古代ギリシャ文法における中動態（主体が行為の外部にある能動でも、力を受ける受動でもなく、展開する過程そのものに巻き込まれている態）が、この制作の構えを最もよく言い表している。

記憶は、イメージや物語として描かれるのではなく、素材や制作のプロセスに埋め込まれている。繊維には接触の痕跡が残り、層には時間や環境の刻印が蓄積される。日常の断片や他者につながる残余は、不在の表象としてではなく、作品の形成に関与する能動的な要素として取り込まれる。失われたものは戻らないが、残されたものの構造のなかで作用し続ける。作品は喪失を意味や慰めに解消するのではなく、欠落が影響を持ち続ける場を維持する。

多孔質で、積層的で、変化に対して脆い紙のように人間の存在もまた蓄積と溶解、過ぎ去ったものの静かな持続を通じて展開する。半澤の作品は、主体と素材、在と不在、意図と予測不可能性を、その緊張を解消することなく共に保持している。

---

## 経歴

紙や繊維を主な素材とし、記憶や時間の痕跡、環境や身体との関係を主題に、彫刻、平面、インスタレーション作品を制作。紙を表面としてではなく、素材のプロセスを通じて形成される構造として扱い、日常の行為や感覚の痕跡を繊維の重なりや絡まりのなかに取り込むことで、経験や時間の流れを表象するのではなく蓄積させることを試みている。主な展覧会に「庭を詠む / Listening to the Garden」(aaploit、東京)、「PAPER : かみと現代美術」(熊本市現代美術館)、「The Histories of the Self」(ポーラ美術館)などがある。国内外のアーティスト・イン・レジデンスにも参加し、様々な環境や場との関わりのなかで制作を続けている。

1988 栃木県宇都宮市生まれ 東京都拠点

---

## CV

### 学歴

2010 女子美術大学 芸術学部 立体アート学科 卒業

---

### 個展

- 2025 『庭を詠む / Listening to the Garden』, aaploit, 東京
- 2024 『Self: multiple presents』, ふじ・紙のアートミュージアム, 静岡
- 2023 『泡沫を掴む / Grab the bubbles』, 小松庵総本家銀座, 東京
- 2022 『Narrative Act』, DiEGO表参道, 東京
- 2020 『Note』, MARUEIDO JAPAN, 東京
- 2019 『The Histories of the Self』, ポーラ美術館 アトリウムギャラリー, 神奈川

---

### グループ展 (抜粋)

- 2025 『中之条ビエンナーレ2025』, 群馬
- 2024 『Intimité』, Space Un Tokyo, 東京  
『土にうまれる』, Dream Space Gallery, チェンマイ, タイ
- 2023 『皮膚で見る The Eyes of the Skin』, MARUEIDO JAPAN, 東京

『中之条ビエンナーレ2023』, 群馬  
『シン・ジャパニーズ・ペインティング』, ポーラ美術館, 神奈川  
『美の予感2023—象・彫・刻・塑—』, 高島屋日本橋店; 京都店; 大阪店; 名古屋店; 横浜店; 新宿店

2022 『PAPER : かみと現代美術』, 熊本市現代美術館, 熊本

2021 『—肌理と知覚—』, 日本橋高島屋 美術画廊X, 東京

2020 『ポーラ ミュージアム アネックス展2020 -真正と発気-』, ポーラ ミュージアム アネックス, 東京

## アートフェア

---

2025 アートフェア東京2025, 東京 (aaploit)

2024 Art Fair Asia Fukuoka 2024, 福岡 (aaploit)

## レジデンス

---

2025 中之条ビエンナーレ2025, 群馬

2024 Space Unレジデンスプログラム, ダカール, セネガル  
中之条ビエンナーレ国際芸術交流プログラム, チェンマイ, タイ

2023 中之条ビエンナーレ2023, 群馬

2018 ポーラ美術振興財団 若手芸術家在外研修員 (アメリカ、メキシコ、カナダ)

2017 南総金谷芸術特区, 千葉

## 受賞・助成

---

2019 第19回 女子美制作・研究奨励賞

2018 ポーラ美術振興財団 若手芸術家の在外研修助成

2016 『FINE ART / UNIVERSITY SELECTION 2016-2017』 優秀賞

## コレクション (抜粋)

---

羽田空港 センチュリオン・ラウンジ  
ザ・リッツ・カールトン福岡  
ホテル虎ノ門ヒルズ

グランクレール HARUMI FLAG  
パークホームズ西荻窪アベニュー  
パークホームズ荻窪三丁目

---

**aaploit**

〒112-0014 東京都文京区関口1-21-17 TMKビル2F

info@aaploit.com



作品をもっと見る

<https://aaploit.com/ja/artists/hanzawa-tomomi>

---

## 著作権・利用条件

### © 2026 半澤 友美 and aaploit

本資料に含まれるすべての作品、画像、テキストは著作権で保護されており、アーティストおよびaaploitに帰属します。

### ポートフォリオ・高解像度画像

出版、研究、キュレーション目的での包括的なポートフォリオおよび高解像度画像ファイルは、ご要望に応じてご提供いたします。お問い合わせは下記まで: [info@aaploit.com](mailto:info@aaploit.com)

### 許可される利用:

- 批評、教育、ジャーナリズム目的での短い引用・抜粋。
- 適切なクレジット表記を伴う複製: "半澤 友美、courtesy of the artist and aaploit"

### 禁止される利用:

- 書面による許可のない商業目的での複製。
- 画像またはテキストの改変。
- アーティストの作品や意図を誤って伝える複製。

最終更新日: 2026年3月29日